

7月放送総局長定例記者会見要旨

**(1) 三浦春馬さんの訃報について (正籙放送総局長)**

俳優の三浦春馬さんが7月18日に亡くなりました。大変悲しい知らせに驚いています。まずは、謹んでお悔やみ申し上げます。

三浦春馬さんは、NHKとは関係が深く、連続テレビ小説「あぐり」で子役として7歳でデビューされて以降、大河ドラマ「武蔵」「功名が辻」「おんな城主直虎」など数多くのドラマにご出演いただきました。この夏、総合テレビでも放送予定の特集ドラマ「太陽の子」の収録では、髪を刈り上げて撮影に臨み、戦時下という困難な時代にどう生きるか葛藤する若者の姿を見事に演じていただきました。

現在、総合テレビで放送している紀行番組「世界はほしいモノにあふれてる」では、2018年の番組開始からMCをつとめていただき、時には自ら旅に出て、世界の素敵なモノ、それを生み出す職人たちの魅力を、JUJUさんとの軽快なトークで伝えていただきました。

私自身は、「おんな城主直虎」で苦難の人生を歩んだ井伊直親役が非常に印象に残っております。まばゆいばかりの笑顔と、その一方で心のひだを醸し出すような陰影に富んだ演技が、すばらしい才能だと思いました。NHKにとって、ずっと大事にしてきた宝物を失うような感じで、非常に残念です。

NHKの番組だけでなく、映画や舞台、民放ドラマなど幅広いジャンルでも才能を発揮され、今後に大いに期待していましたので、残念でなりません。改めて感謝と哀悼の意を表します。

**(2) 「麒麟がくる」放送再開について (正籙放送総局長)**

大河ドラマ「麒麟がくる」は6月7日の放送以降、休止していたが、8月30日より放送を再開する。現在、新型コロナウイルスの感染予防対策を行いながら、収録を行っている。通常の時と比べるとかなり時間はかかっているが、再開のメドがついた。

なお、連続テレビ小説「エール」については、引き続き再放送をお楽しみいただきたい。

### (3) 戦争と平和を考える番組

NHKスペシャル「“撤退”は何をもたらしたのか～沖縄戦 最後の1か月～」 (正籐放送総局長)

同「アウシュビッツ“死者”からの手紙～明らかになる殺戮(りく)の真実～」 (林副総局長)

「もういちど“長崎の原爆”をみつめる 原爆の絵 ふたたび」 (正籐放送総局長)

戦後75年を迎えるこの夏、NHKでは、さまざまな角度から戦争と平和について考える番組を放送する。8月2日には、NHKスペシャル「“撤退”は何をもたらしたのか～沖縄戦 最後の1か月～」を放送する。

住民の4人に1人、12万人が命を落とした沖縄戦の中でも、凄惨(せいさん)を極めたのが、日本軍が首里の司令部を撤退した5月末からの1か月。日本軍が、本島南部の自然洞窟を利用して、本土侵攻を目指すアメリカ軍を足止めしようと徹底した持久戦を展開した時期だ。混乱の中、あまりにも被害が大きかったため、誰がどこでどのように亡くなったのか、その詳細はいまだ明らかになっていない。

今回NHKは、アメリカ軍の新資料を発掘し、さらに1700人を超える住民の証言を検証し、人々の行動を再現した。すると、徹底抗戦しようとする兵士と、戦禍を避けようと避難した住民たちが混在する中で、住民が容赦なく米軍の猛攻にさらされていった詳しい状況が浮かび上がってきた。

番組では、徐々に追い詰められる中、住民と日本兵の間に相互不信が生まれ、さらに死が積み上がっていく状況も描く。事実上勝敗が決した後に、なぜ多くの命が失われてしまったのか、沖縄戦の実相に迫る。

8月16日には、NHKスペシャル「アウシュビッツ“死者”からの手紙～明らかになる殺戮の真実～」を放送する。

600万人以上のユダヤ人らがガス室などで殺害された人類史上最悪の「ホロコースト」。“死の工場”と呼ばれたアウシュビッツ強制収容所の地中から『謎の手紙』が次々と発見され、今、最新のデジタル技術でその解読が進んでいる。手紙を書いたのは、同胞をガス室へ誘導する役割や遺体の処理などを担わされた、「ゾンダーコマンド」と呼ばれるユダヤ人特殊部隊のメンバーたち。大量虐殺の一部始終を知る彼らは、口封じのため最終的に大半が殺害されたが、死の直前、実態を告発するための手紙を密かにつづっていた。

手紙から浮き彫りとなったのは、作業を細かく分けてゾンダーコマンドを分断し、連帯させないようにする収容所のシステムだ。一方、そうした過酷な収容所の中でも、諜報員を通じて大量虐殺の実態を外に向けて発信するという、決死の行動も記されていた。手紙からは、極限状態の中で生き延びようとした人たちの知られざる人生が見えてくる。75年の時を経て地中からよみがえった“遺言”から、歴史の闇を照らす。

BS4Kでは、8月7日に「もういちど“長崎の原爆”をみつめる～原爆の絵 ふたたび～」を放送する。NHK長崎放送局では、被爆75年を迎える今年、長崎原爆資料館に保管されている800枚あまりの「原爆の絵」を改めて取材し、その絵に刻まれた「あの日の記憶」を見つめ直す試みを行っている。これらの絵は、1974年と2002年の2度にわたって広く募集された、被爆者たちが自身の経験を描いたものだ。

取材を通じて明らかになってきたのは、今まで語られることのなかった、被爆者たちのさまざまな「『あの日』に対する思い」だ。あまりに衝撃的な光景を現実として受け止めきれず、見たものそのままを絵に描くことはできなかったという人や、絵を描くことを亡くなった方から促されているように感じ始めたという人もいる。

決して脳裏から離れることのない「あの日」の経験は、どのように被爆者に受け止められ、一枚一枚の「原爆の絵」へと結実したのか。高精細4Kカメラによる映像で「原爆の絵」そのもののタッチを感じていただきながら、その絵に込められた思いに触れていただきたい。

NHKではこの夏、さまざまな切り口で「戦争と平和を考える番組」を放送する。より多くの視聴者の皆さまに見ていただけるよう、そうした番組に「戦後75年 考えよう、平和のこと。」というキャッチコピーを付ける。  
(詳細は報道資料を参照)

#### (4) 「さよなら！インターハイ」ミキと高校生の“校内放送”

今日は一日Little Glee Monsterと合唱三昧 (小池副総局長)

総合テレビでは、8月22日に「さよなら！インターハイ～ミキと高校生の“校内放送”～」をお届けする。

新型コロナウイルスの感染拡大により、全国高校総体など、高校生たちの集大成となる多くの大会や舞台が失われた。この番組は特に、最後の大会にかけていた高校3年生にエールを送る番組だ。

番組では、兄弟漫才コンビ、ミキのお二人が、とある高校の放送室で、全国から寄せられた高校3年生のメッセージを紹介する。「高校3年生たちがいま、どのような思いで過ごしているのか?」「苦しいときに支えになったり、気持ちに区切りをつけられたりした出来事とは、どんなことだったのか?」など、寄せられた思いを共有しながら、共に明日へ向かうヒントを探していく。

また、公演の機会を失った演劇部の生徒が作成した動画や、吹奏楽部やダンス部によるリモートでの演奏やダンスなど、高校生たちのさまざまな試みも紹介し、10代の心情に迫る。

またFMでは、8月10日に「今日は一日Little Glee Monsterと合唱三昧」を放送する。

新型コロナウイルスの影響により、NHK全国学校音楽コンクール、通称「Nコン」の中止が決まり、「残念、悔しい」という声がたくさん寄せられていたが、子どもたちは少しずつ歌声を取り戻しつつある。子どもたちにとって希望である合唱を、今年のNコン中学校の部の課題曲を作詞したLittle Glee Monsterの皆さんと一緒に、6時間35分にわたり大特集する。

番組では、困難な今だからこそ聴きたい合唱曲、青春の合唱曲、人生を応援してくれた合唱曲、という3つのテーマで「とっておきの合唱曲」を募集している。曲にまつわるエピソードともにリクエスト曲を紹介するほか、合唱を再開し始めた子どもたちの近況紹介や、リトグリとの生電話企画など、合唱を通して子どもたちにエールを送る。

(詳細は報道資料を参照)

#### (5) 「Zの選択」 (若泉副総局長)

Eテレでは、次世代を担う若者たち「Z世代」のリアルに迫る番組、「Zの選択」を8月6日から3週連続で放送する。

「Z世代」とは、1995年以降に生まれ、デジタルに囲まれて育ち、SNSを当たり前を使いこなす若者たち。次世代を担う彼らが、どんな生き方を「選択」しているのか、リアルな姿に迫るドキュメンタリー番組だ。

番組には、「恋愛」「タブー」「つながり」をキーワードに、毎回2人のZ世代が登場する。漫画のキャラクターと結婚したという21歳の女性、昆虫食を愛するあまり専門のレストランをオープンさせた26歳の男性など、6人の「選択」と、その背景にある価値観や思いを、本人のモノログで紹介する。

(詳細は報道資料を参照)